



重要な公共施設が多く含まれている土地改良事業

問 この取り組みへの行政認識を問う。
市長 農業改善のみならず、川上谷川の治水など多く公共性の高い事業を併せ持っている。

問 国の農業政策が転換され、農家を取り巻く状況は悪化の一途を辿っており、費用増大が予測される。事業完了に向けた行政支援を。
市長 本市の生活全体に息づく農業リーダーとし、位置付けたうえ可能な限り支援する。

問 福祉「溢れる町」への取り組み
総務部長 人口や、高齢者比率を重視した、交付税算定されれば、

問 定住人口増加をめざすには、豊かな風土を生かした保健・福祉・医療を充実させ、安心して健康で暮らせる「健康長寿」の町づくりが大切だと考える。
市長 蓬萊の郷、健康長寿を目指した町づくりは重要である。

問 団塊世代の定住を図るメリットは。
総務部長 人口や、高齢者比率を重視した、交付税算定されれば、

問 出合いの場設定を人口増を図るため
め、結婚サポート事業を推進すべきだと考える。本年10月京都JAが農業専従男性対象に、お見合いツアーを実施し、五組のカップルが誕生したと聞く。一般男性にも出合いの場を設定することが、必要ではないか。
企画政策部長 定住促進の一環でボランティア活動と一体化した「出合いの場」とした計画を考えている。

海部土地改良事業 完了に向けた支援

丹政会
谷口正博

市長 可能な限り支援をする

問 多くの待機者がある施設入所の公平性を担保するため行政で一本化できないか。
保健福祉部長 府で施設入所指針が定めてあり、市の保健師が入った検討委員会もあるが、個々の施設ごとに対応する必要がある。

問 より公平性を担保するため検討を望む。
保健福祉部長 府で施設入所指針が定めてあり、市の保健師が入った検討委員会もあるが、個々の施設ごとに対応する必要がある。

問 市民ワーキンググループを受けて、補助金見直し案が公開されたが、これの位置付けは。
企画政策部長 中間報告と位置付けている。
問 採点したのは誰か。
企画政策部長 市民の意見を聴いた6名の課

市長 個別の評価は一

問 長から構成する「補助費のあり方検討会議」が採点・評価した。
問 検討会議の評価が低く、廃止するはずのイベントが、市の責任において実施することになっている理由は。
市長 個別の評価は一

問 全国的に教育委員会のあり方や体質が問題になっている。本市は大丈夫か。
教育長 心配ない。

問 現場での対応が、遠距離通学基準などを理由に門前払いになる心配はないか。
教育長 心配ない。

問 通学の安全対策は。
教育長 状況が様々なので個別に対応する。

問 現場での対応が、遠距離通学基準などを理由に門前払いになる心配はないか。
教育長 心配ない。

今の補助金改革は 理解できない

丹政会
森口亨

市長 私、まだ何も聞いていない

問 全く理解できない。「敬老会補助金」や「地元農産物の給食利用促進支援事業費補助金」など、この進め方で、補助金改革に対して市民の合意を得られるとは思えないが。
市長 まだ、個別の話は本場に聞いていない。

問 学校の耐震化工事と学校再配置の関連は。
教育次長 市長は、近い内に再配置を検討すると答弁している。耐震化優先度調査の結果もその資料となる。

問 通学の安全対策は。
教育長 状況が様々なので個別に対応する。

問 現場での対応が、遠距離通学基準などを理由に門前払いになる心配はないか。
教育長 心配ない。

適切な繰入と 病院会計の負債解消を

丹政会
大同 衛

市長 時間的に余裕があるとは思っていない

問 病院会計に4億7000万円を繰入っている。多いのだが、自治体病院経営指標に基づく、10億2418万円、地方公営企業概況でも8億9034万円繰入が必要である。豊岡市も17億5772万円を繰入しており、本市に換算すると9億円以上である。医療収益も悪く負債が増加している。9億程度の繰入が必要ではないか。
市長 今回の繰入額では不足していると評価している。出来る限りの

問 全国公立病院会計のなかで一時借入金残高は、ワースト81位であり、早期に病院改革が必要と公表されている。財政支援の手薄な公立病院に医師は来ない。一時借入金の解消が必要ではないか。
市長 医師確保を重点にしていたが、難しさ

問 10月に深谷病院が一時借入を拒絶され、民間への売却となったが、巨額の負債が市民負担となる。判断を間違えると大きな市民負担が発生するが。
市長 しつかりやるというスタンスであるが、対策無しに穴埋めをしなくても止まらない。様々な対策を合わせて行わ

問 今年度も負債は増え、来年も経営状況の改善は見込めない。病院会計の負債を真剣に考えないと雪だるま式に負債が増えてしまう。
市長 危機感を持っている。時間的に余裕があるとは思っていないが、同時に医師の確保が重要であり、繰入時には、同時に明確な展望を示したい。



公立病院には公費の投入が必要

問 病院会計に4億7000万円を繰入っている。多いのだが、自治体病院経営指標に基づく、10億2418万円、地方公営企業概況でも8億9034万円繰入が必要である。豊岡市も17億5772万円を繰入しており、本市に換算すると9億円以上である。医療収益も悪く負債が増加している。9億程度の繰入が必要ではないか。
市長 今回の繰入額では不足していると評価している。出来る限りの

問 全国公立病院会計のなかで一時借入金残高は、ワースト81位であり、早期に病院改革が必要と公表されている。財政支援の手薄な公立病院に医師は来ない。一時借入金の解消が必要ではないか。
市長 医師確保を重点にしていたが、難しさ

問 10月に深谷病院が一時借入を拒絶され、民間への売却となったが、巨額の負債が市民負担となる。判断を間違えると大きな市民負担が発生するが。
市長 しつかりやるというスタンスであるが、対策無しに穴埋めをしなくても止まらない。様々な対策を合わせて行わ

問 今年度も負債は増え、来年も経営状況の改善は見込めない。病院会計の負債を真剣に考えないと雪だるま式に負債が増えてしまう。
市長 危機感を持っている。時間的に余裕があるとは思っていないが、同時に医師の確保が重要であり、繰入時には、同時に明確な展望を示したい。

問 今年度も負債は増え、来年も経営状況の改善は見込めない。病院会計の負債を真剣に考えないと雪だるま式に負債が増えてしまう。
市長 危機感を持っている。時間的に余裕があるとは思っていないが、同時に医師の確保が重要であり、繰入時には、同時に明確な展望を示したい。

問 今年度も負債は増え、来年も経営状況の改善は見込めない。病院会計の負債を真剣に考えないと雪だるま式に負債が増えてしまう。
市長 危機感を持っている。時間的に余裕があるとは思っていないが、同時に医師の確保が重要であり、繰入時には、同時に明確な展望を示したい。

間人保育所の 移転は全館使用で

丹政会
池田恵一

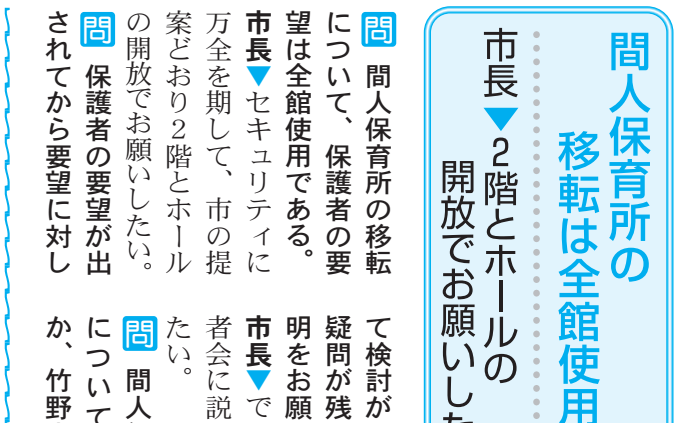
市長 2階とホールの開放でお願いしたい

問 間人保育所の移転について、保護者の要望が出ている。丁寧な説明をお願いしたい。
市長 セキュリティに万全を期して、市の提案どおり2階とホールの開放でお願いしたい。

問 間人保育所の移転について、新設なのか、竹野小に移転なのか、タイムスケジュールはどうなっているのか。
市長 21年度開設し、まだ決まっていない。準備会を設置して協議していきたい。

問 地域振興協議会等から、竹野小を間人小へ統合し、その後に保育所をとの要望がでているが、まだ管内小学校の統廃合計画もできていないのに、竹野小の後という議論は時間的に無理ではないか。

問 現在の教育課題は
問 今、いじめや必修科目の履修漏れ問題等で教育委員会の在り方



間人保育所に改修される地域公民館

問 間人保育所の移転について、保護者の要望が出ている。丁寧な説明をお願いしたい。
市長 セキュリティに万全を期して、市の提案どおり2階とホールの開放でお願いしたい。

問 間人保育所の移転について、新設なのか、竹野小に移転なのか、タイムスケジュールはどうなっているのか。
市長 21年度開設し、まだ決まっていない。準備会を設置して協議していきたい。

問 地域振興協議会等から、竹野小を間人小へ統合し、その後に保育所をとの要望がでているが、まだ管内小学校の統廃合計画もできていないのに、竹野小の後という議論は時間的に無理ではないか。

問 現在の教育課題は
問 今、いじめや必修科目の履修漏れ問題等で教育委員会の在り方

問 現在の教育課題は
問 今、いじめや必修科目の履修漏れ問題等で教育委員会の在り方

問 現在の教育課題は
問 今、いじめや必修科目の履修漏れ問題等で教育委員会の在り方

間人保育所の 移転は全館使用で

丹政会
池田恵一

市長 2階とホールの開放でお願いしたい

問 間人保育所の移転について、保護者の要望が出ている。丁寧な説明をお願いしたい。
市長 セキュリティに万全を期して、市の提案どおり2階とホールの開放でお願いしたい。

問 間人保育所の移転について、新設なのか、竹野小に移転なのか、タイムスケジュールはどうなっているのか。
市長 21年度開設し、まだ決まっていない。準備会を設置して協議していきたい。

問 地域振興協議会等から、竹野小を間人小へ統合し、その後に保育所をとの要望がでているが、まだ管内小学校の統廃合計画もできていないのに、竹野小の後という議論は時間的に無理ではないか。

問 現在の教育課題は
問 今、いじめや必修科目の履修漏れ問題等で教育委員会の在り方

総務常任委員会 管外視察報告

視察日：平成18年11月14日(火)～15日(水)

視察先：長野県飯田市「地域情報化について」
長野県中川村「公共交通対策について」

委員長 井谷 実夫
副委員長 森口 良一
委員 奥野 重治
川村 博茂
田茂井 誠司郎
松田 成溪
松本 聖司

情報化計画を再検証

▼視察目的

地域情報化の先進地と取り組みを調査・研究することで「京丹後市地域情報化計画」の再検証を行なう。

▼視察地

長野県飯田市

▼視察内容

飯田市の地域情報化は、民間業者の参入やモデル都市の指定など、比較的恵まれた環境のなか、ハード整備中心ではなく「産業づくり」「都市づくり」「人づくり」の3つの重点目標を達成するための道具として活用されていた。

コミュニティFMは開局から5年が経過したが、行政支援がないと厳しい経営が続くと予測されていた。

ケーブルTVは、加入見込みや市民ニーズを的確につかみ、十分検討しながら利用料を設定することが重要とのことだった。

▼視察所見

本市では、民間企業による情報サービスの提供が極めて少なく、情報基盤整備そのものが急務であり、厳しい財政状況のなか、市民ニーズと優先順位をしっかりと見極めながら、地域情

公共交通の見直し

▼視察目的

条件不利地域における地域生活交通システム見直し事例を調査・研究することで、本市の公共交通体系の抜本的に見直す。

▼視察地

長野県中川村

▼視察内容

中川村では、県の支援を受

け、様々な形態で運行していた公共交通を、住民参加による委員会が中心となって再構築されていた。

バス事業は、機能を集約し全ての住民が利用しやすいダイヤ編成を心がけるとともに、低料金とすることで利用増加を図り、車両を村所有のバスとし公有財産の活用もされている。

また、福祉・過疎地有償運送事業を導入し、バス事業では対応できない戸口から戸口への輸送手段を確保しながら、バス運行が空白となる地域・時間帯もカバーされている。

年間1万円の家族乗り放題の定期券や、衛星とCATVを活用したバス運行情報発信サービスなどのアイデアで、利用者の負担軽減と利用促進が図られていた。

▼視察所見

本市では、公共交通が利用できない地域が点在する一方で、1億円近い財政支援をして民間のバス運行を維持している。中川村の地域生活交通システム見直しの中から以下の4点を参考に、公共交通体系を根本的に見直し、確立する時期に来ている。その最終目標は「市民生活に必要な移動をどう確保するか。」である。



路線バスの現在地が自宅TVで

公図混乱と

地籍調査事業について

市長▼重要な事業であると認識している

無会派 松本 経一

問 市内には公図混乱の地域が多くあり、集団和解という大掛かりな手法で解消に取り組んだ地域もある。公図訂正には多くの費用や煩雑な手間がかかる。市民負担を軽減するため測量費助成制度は考

えられないか。

建設部長▼現在助成制度創設は考えていない。

問 国・府の補助を受け、住民負担なしで土地の境界を確定する「地籍調査事業」がある。市全域を行うには何十年もかかる大事業

国際化時代への対応

問 中国毫州市との友好都市提携は、市民の理解や関心が低い。国際交流は民間中心に行うことで成果が出る。今後の方針を問う。

市長▼民間交流を進めるため、国際交流協会の設立を計画している。

問 外国人市民が増加しているが、言葉など生活の苦勞も多い。市役所の相談体制の現状はどうなっているか。

生活環境部長▼特別なことではない。外国人市民を対象に、子育てや行政手続きの相談日を開設してもらいたい。また、学校での国際理解教育もしっかり進めて欲しい。

教育長▼国際理解教育は英語指導助手や外国人市民の力を借りるな

ど、学校ごとに様々な取り組みを行いたい。

織物振興施策について

問 府の施策と連携し、企画力や販売力を強化し、モノ作りマインドを高める施策を行うことが必要だ。また、最低賃金の現状把握や、工賃収入源による生活困難支援、丹工遊休土地活用など、業界支援も行ってもらいたい。

市長▼あらゆることを真剣に考え、行いたい。



測量費の助成制度や地籍調査事業の促進を

どういうビジョンでどんな事業を削って新規大型事業をするのか？

市長▼今、正に編成中である。またいずれ報告する。

無会派 早川 雅映

問 「危機を乗り越えるためのリーダーシップのあり方とその責任」をテーマに質問する。今の施策の全てが悪いわけではない。良い部分については時計の針を巻き戻してはならない。しかし、現状

を人の体に例えると、くも膜下出血を起こしているのに捻挫にシッブを当て、マニキュアをしているようにみえる面がある。民営化・アウトソーシング・人材派遣・幼保一元化など、深く現場や本質を

見ることなく言葉や頭だけで考えて進めると大けがをしかねない上に必ず失敗する。京丹後市のピンチをチャンスに変えるためには、3つのポイントがある。①現状をきちんと把握し、本質を考えた上で改革や施策を行うこと。②職員の情報・アイデア・厳しい意見が集まる状態を作り、本当の組織改革を行うこと。③やるべき事を先送りせず、真っ

向から取り組むこと。学校統廃合や病院、7月豪雨災害の組織総括などのように先送りはすべきでない。これらを踏まえてアドバラーンではない本質をつかんだ施策をやる必要がある。市長の見識は。市長▼いちいちその通りだと思って受け止めていた。二律背反の判断も多く、苦慮している。具体的な事柄についてもご提言頂き、連携し、知恵も頂きながら進めたい。

問 いじめは大人社会の反映であり、市民・職員にとつての父は市長である。法に反していなければOKなら、倫理や道徳は要らない。我々は高い道徳性倫理性を持って、市民と共に新しい改革を進めなければならぬ。「過ちを改めざるを罪というなり」「人は欺けても自分は欺けない」この言葉は市長に贈り、私の一般質問を終結する。

教育環境常任委員会 管外視察報告

視察日：平成18年10月26日(木)～27日(金)
視察先：石川県白山市「学校統合について」
「保育所の現状と課題について」
岐阜県端浪市「幼保一体化について」

委員長 松尾 信介
副委員長 平林 智江
委員 浅田 武夫
池部 皓三
岡田 修
大同 衛
松本 信之

幼保一体化と学校統合のあり方を探る

▼視察地

石川県白山市

公設民営保育所

▼視察内容

京丹後市では、保育所の民営化が検討されている。民営化は行政にとって負担軽減の重要な手段であるが、同時に行政サービスの水準が保たれ、市民に不安を与えないことが求められる。

白山市の公設民営化保育園について説明を受け現地視察を行った。

▼視察所見

白山市では、合併前から保育所の民営化が進められ、民間保育所は半公営として、住民に自然に受け入れられていることが感じられた。

京丹後市においては、合併後も統一した保育の考え方が確立されず、行財政改革による保育職員の減少や、施設の老朽化等課題がある。

保育所民営化については一定

学校統合

▼視察内容

京丹後市では、少子高齢化と過疎化が急速に進み、児童の減少によって複式学級も増えるなど、子ども達を取り巻く教育環境は厳しくなっている。学校統合や学校適正配置を検討しなければならぬ時期である。

白山市統合小・中学校建設基本構想検討委員会は保護者や地域住民及び学校の代表者から十分意見を聞き、統合小・中学校が新しい時代にふさわしいモデル校になるように努力している。

白山市の担当者からは委員会の検討経過や学校建設に対する基本的な考え方について説明を受けた。

▼視察所見

山間部での少子高齢化は深刻

健康長寿は隠れた財政改革

▼視察目的

本市は、市立病院の経営改善対策や地域医療のあり方、また、急速に進む超高齢化への対策が急務とされる。今回の視察は、二つの公立病院の業務特化を進め、良好な経営状況を維持している富岡市、また、徹底した保険予防対策により健康長寿の町づくりを進めてきた佐久市の調査を行った。

▼視察地

富岡総合病院

▼視察内容

①地域の概要

富岡地域医療事務組合は、富岡市・甘楽町の一市一町で構成、管内人口は6万8,637人であり、富岡市内に富岡総合病院と七日市病院の二つの公立病院が開設されている。

②病院の機能分担

富岡総合病院を急性期担当、七日市病院を慢性期担当とし、明確に二病院の機能・役割を分担し、病院業務の特化を行っている。また、医師や看護師もそれぞれの医療内容にあった人材配置を行うなど、体制の充実と

機能を明確にした経営方針により病院の安定経営に大きな成果を挙げている。

③病・診療連携

病院と地域医師会の協力体制により、診療データを電算化し、出先医療機関等での閲覧を可能としている。また、患者を病院と診療所等が紹介し合うなど地域医療の連携が図られている。

④マンパワーの充実

厳しい医療制度のもと、逆に医療スタッフを増員・充実する事で、在院日数の短縮と、密度の濃い医療の展開を可能とし、結果的に人件費の増加を上回る医療収益を上げている。

▼視察所見

住民に医療を提供し続けるためには、病院の経営方針のあり方がいかに大きな意味を持つかが改めて認識した。病院の経営状況は市の財政に直結する事から、市立病院と民間病院等との機能分担や医療資源の集約、職員体制など、今後の本市の病院運営のあり方に大きな参考となった。

▼視察地

長野県佐久市

▼視察内容

①保健予防事業

市長は医学博士であり、佐久市の保険予防施策は全国でも有数と言える。かつて脳卒中死亡率が全国一だったが、健康管理センターを拠点として各種検診事業等、予防医療の為の保健事業を徹底した結果、現在、平均寿命は全国トップクラス。「健康長寿の都市宣言」を行い高齢者支援として92の事業メニューを組むなど『元気で長寿、病まずに亡くなるピン・ピン・コロリの里』として有名。

②保健指導員制度

昭和46年、主婦を主体に結成。特徴として「自分の健康は自分でつくる」ための自主組織で、活動は健康教育への参加や検診の受診勧奨、また、習得知識を家庭や地域に普及させるなど、住民自らの健康意識の高揚に大きく貢献し「保健文化賞」等の授与の一翼となった。指導員は現在712人であるが、延べ数は2万2千人を超え、健康意識の裾野の広さは計り知れない。

③特別養護老人ホーム

市高齢者福祉の拠点。施設内

に診療所や児童交流室を併設するなど、地域との連携を重視。また、入所者に対し仏教会の「心の癒し事業」、さらには「性」に対する相談事業など、終末ケアを特徴とした施設運営を行なっている。

▼視察所見

保健指導員制度は、佐久市が「健康長寿のまち」となった大きな要因。この活動は市の医療費の抑制や高齢者の高就業比率、さらには年間5百人を超える人口流入にも好影響を及ぼしている。高齢化と医療費の増高が進み、保健予防事業の積極的展開が求められる本市では、こうした地域住民の自主的な組織活動の実態と成果は大いに参考となるものである。健康長寿は財政改革にも繋がっている。



特養「シルバーランドみつい」

稲津幼稚園の現地視察を行った。

▼視察所見

端浪市の、幼保一体化の現状は、保育・幼稚園部を設け、保育園部の保育のあり方や幼稚園部のあり方を、全幼稚園職員が研修を重ね、きめ細かな保育と、適正な就学前教育に努め職員と保護者が送迎の折には児童を介し、園をコミュニティの場として活用していた。保育所の整理統合の必要な今、端浪市など先進地等の事例を十分に参考にし、教育委員会や子育て支援課が勇気を持って取り組み、子どもの立場にたった保育や、就学前教育のあり方等について、基本姿勢を確立し、市内の幼保一体化について、協議、促進することを強く感じた。



幼保一体化園の「稲津幼稚園」

集 計 結 果

問 1 あなたの性別と年齢を教えてください。

無作為抽出で選ばせていただいた2,500人、男性1,187人・女性1,313人の方から898人(35.9%)の回答をいただきました。内訳は表1のように男性が357人(40%)、女性が440人(49%)、無回答101人(11%)ですが、それぞれの性別回答率は男性が30%、女性が33.5%であり、表3で見ると年代が高くなるにつれて、回答率も高くなっています。

また、表4のように行政関係団体等経験者は、617人に対して365人で、59.2%と高い回答率となっています。

表 1 一般・性別 回答状況

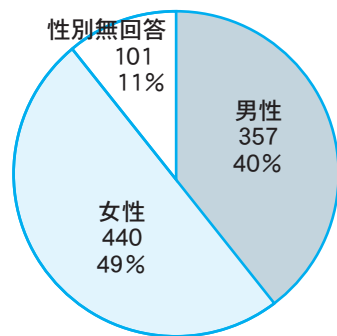


表 2 一般・行政関係団体等経験者別 回答状況

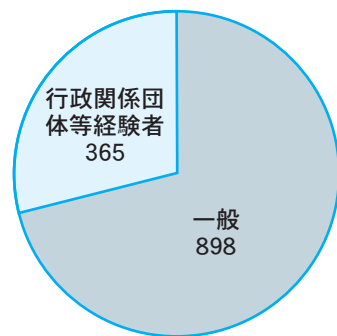


表 3 年代別回答状況

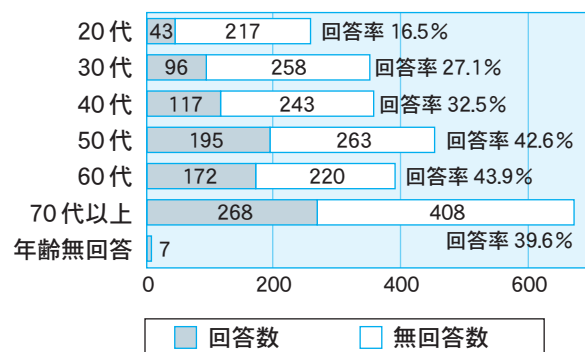
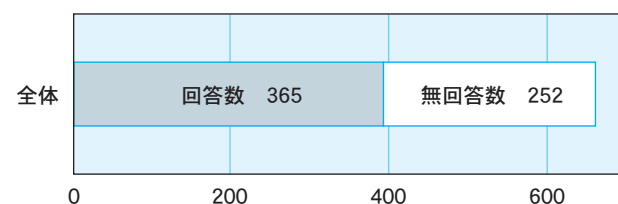


表 4 行政関係団体等経験者 回答状況

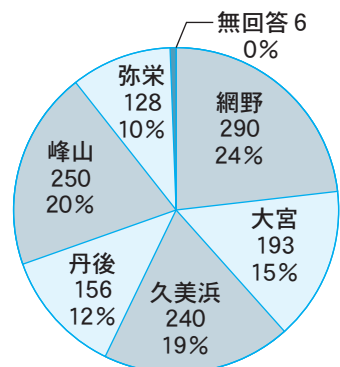
(回答率 59.2%)



問 2 あなたのお住まいについて教えてください。

旧町人口に応じて選ばせていただいたので、旧町別回答率にして大きな差はありませんが、丹後町が最も回答率が高く、次いで峰山町、弥栄町、久美浜町、網野町、大宮町の順でした。

市全体の旧町別比率



旧町別回答状況



京丹後市議会に関するアンケート調査 結果報告書

調査実施の背景と目的

京丹後市議会では、平成18年9月定例会において、議会の活性化と改革に向け、様々な面から議会に関する見直し・検討を行うことを目的に議会改革特別委員会を設置しました。

特別委員会では、議会改革の検討課題を①議員の役割と任務について、②議会基本条例について、③議員定数について、④議員報酬について、⑤政務調査費について、⑥議会の活性化について、⑦市民へのわかりやすさと市民参加について、⑧議会の基本事項について、の8点にまとめました。また、調査検討の手法として、研修会及び視察研修の実施により全国的な議会改革の現状と課題について見識を深めるとともに、市民の皆様の意見を改革に反映するためにアンケート調査・懇談会・公聴会・パブリックコメント等の手法を活用することとしました。

今回の「市議会に関するアンケート」は、市民にわかりやすく開かれた議会づくりに向けて、市民の皆様の議会に対する率直な意見・要望を把握し、今後の議会改革のための資料として活用するとともに、市民の皆様の意見を改革に反映することを目的として実施し、1,263人の方から回答をいただきました。本アンケートの趣旨をご理解いただき、調査にご協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

調査の方法

1 調査地域	京丹後市全域
2 調査対象	① 20歳以上の市民 ② 行政関係団体等経験者(自治区長、旧町議会議員経験者、旧町四役、前地域振興協議会委員)
3 対象者数	3,117人(内訳①2,500人、②617人)
4 抽出方法	① 旧町別人口・年齢比率による住民基本台帳からの無作為抽出 網野町 609人 大宮町 414人 久美浜町 459人 丹後町 272人 峰山町 516人 弥栄町 226人 ② 行政関係団体等経験者 網野町 116人 大宮町 86人 久美浜町 137人 丹後町 92人 峰山町 95人 弥栄町 91人
5 調査方法	郵送による無記名アンケート調査
6 調査期間	平成18年10月24日～11月15日

回収状況

1 発送数	3,117人
2 回収数	1,263人
3 回収率	40.5%

調査項目

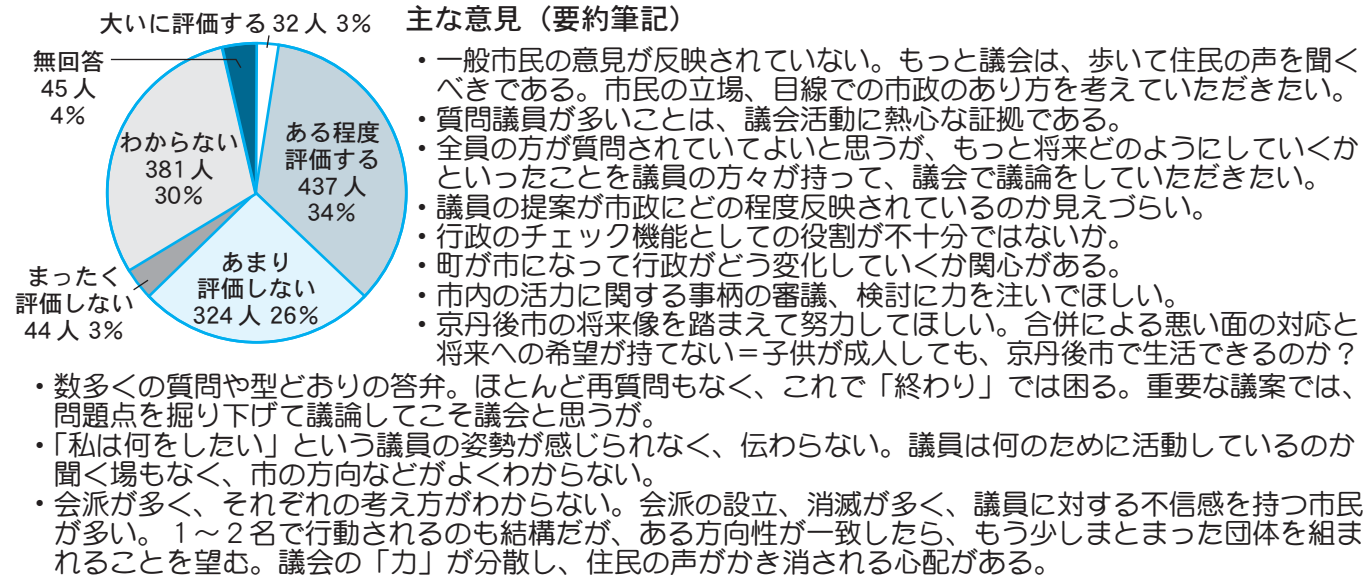
1 調査対象者の属性(問1、問2)
2 市議会への関心度の把握(問3、問4、問5)
3 市議会に対する評価の把握(問6、問7)
4 議会改革に対する意向の把握(問8、問9)
5 議員定数に対する意向の把握(問10、問11)
6 議員報酬に対する意向の把握(問12、問13)
7 政務調査費に対する意向の把握(問14、問15)
8 議会への全体的な意見・要望の把握(問16)

集計結果の見方

- この報告書においては、各質問に対する回答を単純集計しており、クロス集計はしていません。
- 調査結果の円グラフでは、構成比率(パーセント)において小数点以下をおおむね四捨五入しています。
- 設問のなかには前問で特定の選択肢を選んだ人のみが答える限定設問が問9、問11、問13、問15とあり、問9のみ複数回答を可としたことにより回答者数が全体より多くなっています。

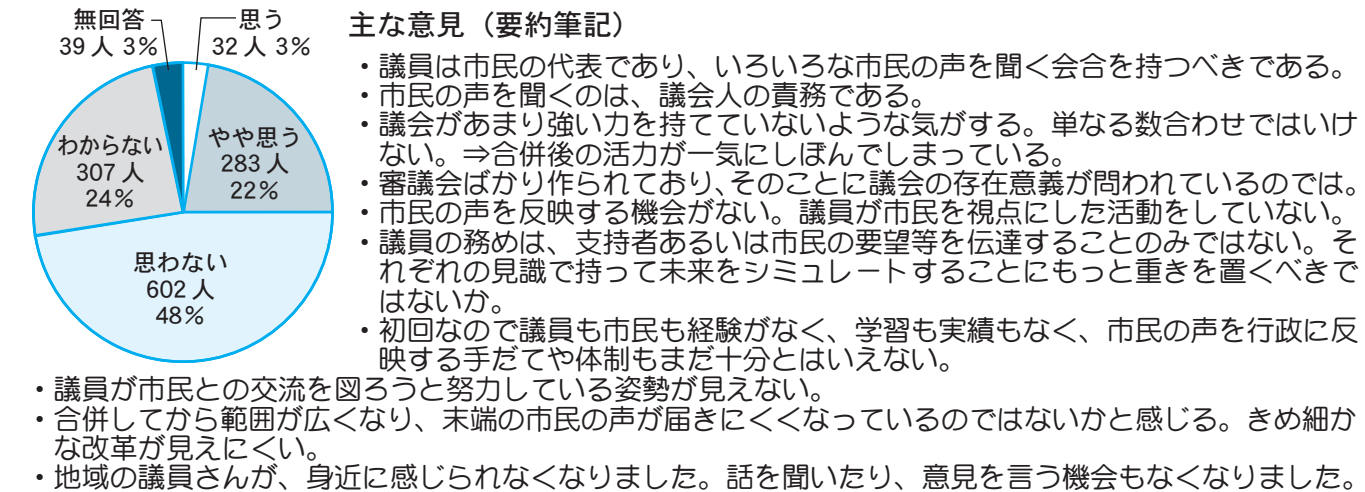
問6 現在の市議会をどのように評価しますか。

「大いに評価する」、「ある程度評価する」を合わせると37%を占め、3分の1程度の方が評価していますが、「あまり評価しない」、「まったく評価しない」を合わせると、同じ程度あります。



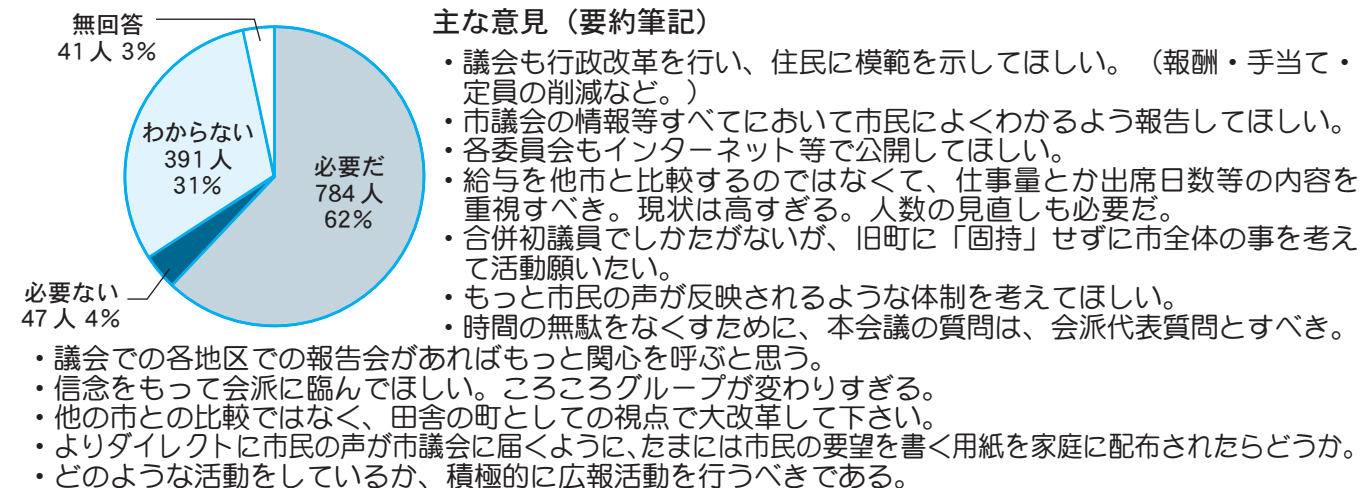
問7 あなたの意見や市民の声が市議会に反映されていると思いますか。

「思う」、「やや思う」を合わせても25%と低く、逆に半数近くの人（48%）が、市民の声が反映されていないと思っています。



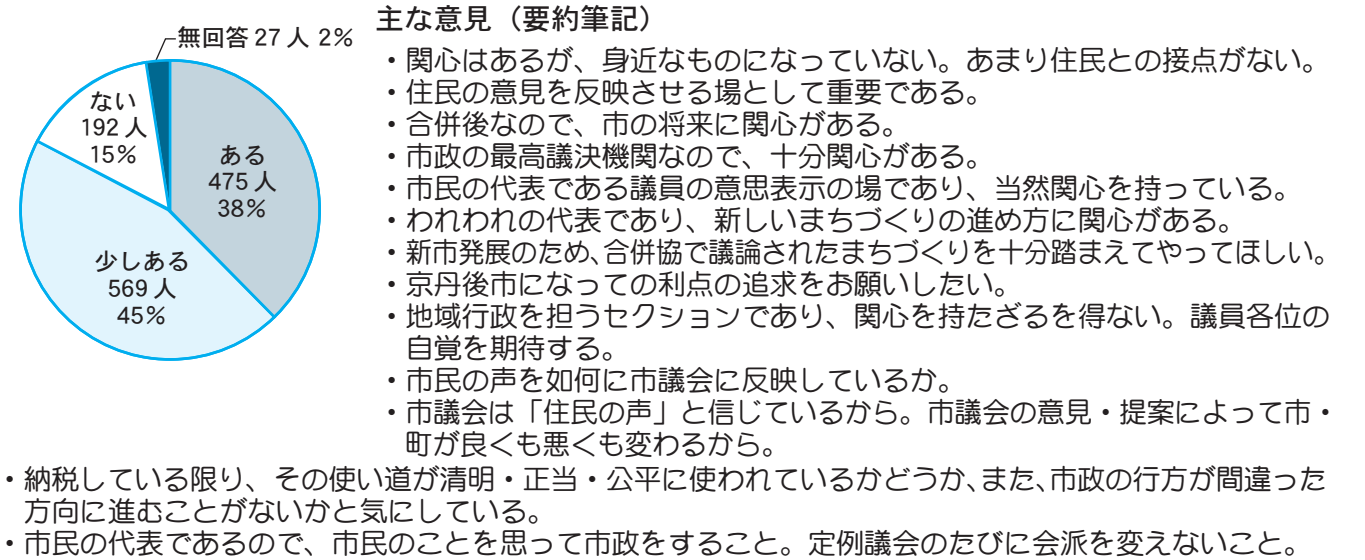
問8 市議会の改革は必要だと思いますか。

「必要ない」という人がわずか4%にすぎず、「改革が必要だ」という回答が大半を占めています。



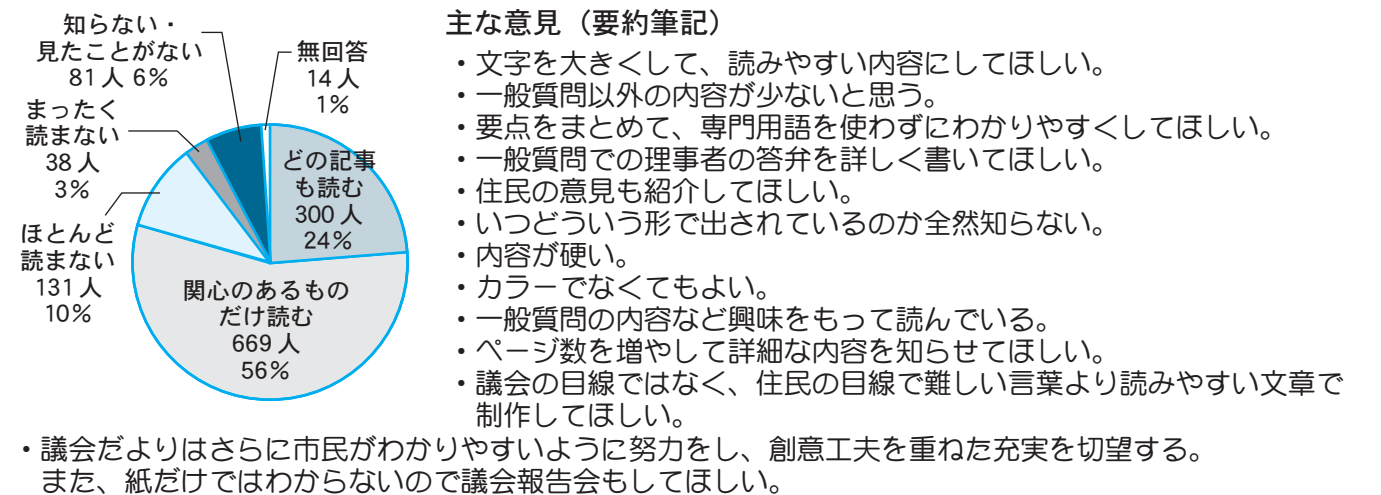
問3 市議会に関心がありますか。

「少しある」が45%と最も多く、「ある」の38%を合わせると8割以上の方が市議会に関心を持っている状況にあります。



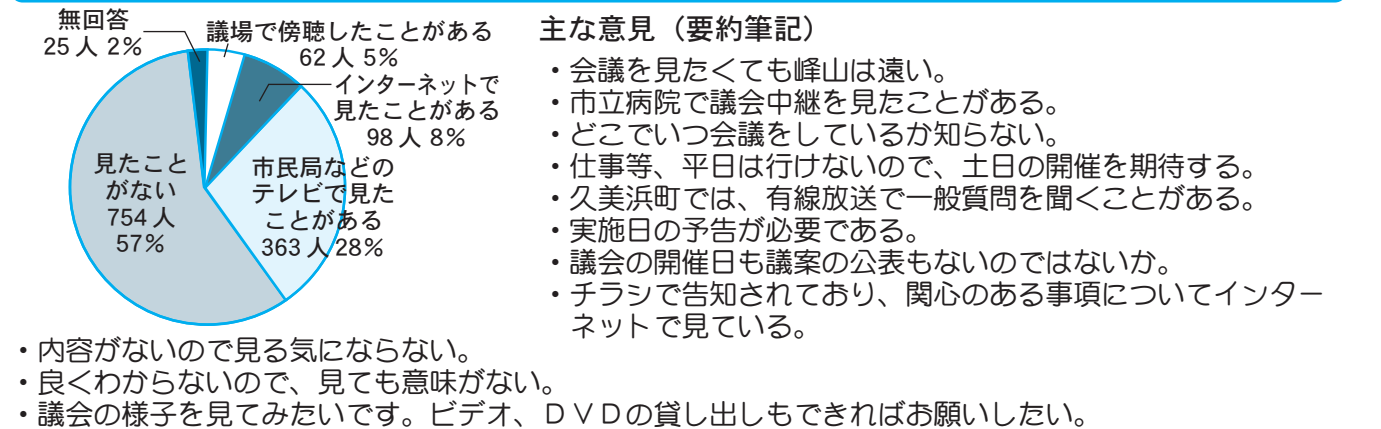
問4 市議会だより「まほろば」を読んでいますか。

「どの記事も読む」24%、「関心のあるものだけを読む」56%を合わせると8割の方が何らかの形で関心を持って市議会だよりを読まれています。



問5 市議会の会議などを見たことがありますか。

市議会の会議を何らかの形で見たことがある人が41%となっており、見たことがない人が57%とかなり上回っています。

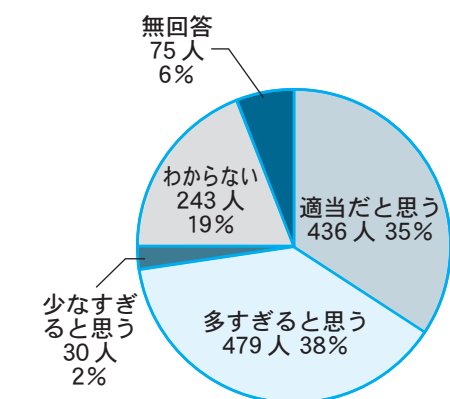


問12 市議会議員に毎月38万円の報酬（現在5%カット）が支給されていますが、これについてどう思いますか。

「多すぎると思う」が38%ありますが、「適当だと思う」もそれとほぼ同じ割合であります。

主な意見（要約筆記）

- ・全ての報酬を明らかにすることが先決。（各種手当があるのでは）
- ・毎月38万円の算出根拠と使われ方が分からない。
- ・議員の仕事の内容との兼ね合いなので、多い少ないは述べられない。
- ・活動を見ると多すぎる。議員としての仕事が充分でない。専業だと適当だと思うが、他に仕事をされている方には多いと思う。
- ・他に職業を持たなくては、活動どころか生活も出来ない現状。
- ・十分議会活動に専念できる報酬が必要。
- ・議員の場合、他に職業を持った人が大部分であり、自分の仕事をしている時間は市に貢献していないといえる。時給にすると高すぎる。
- ・議員が独自に研究・勉強等に打ち込めば妥当。仕事をしない議員が多い。
- ・府下、全国類団市の状況から勘案して適当と思う。
- ・報酬審議会等で検討され決定されていると思う。

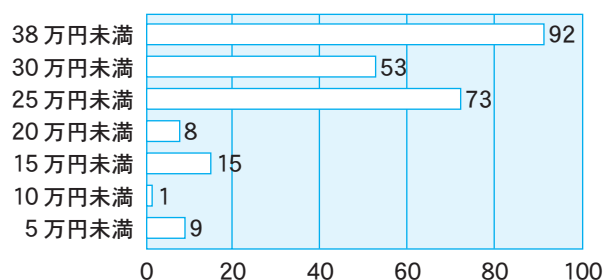


- ・支給カットで議員活動の意欲を下げるよりも、活動に見合うものであるべき。
- ・現状より低くなると、若い人が出られなくなり、年金生活者や限られた人達に独占される恐れがある。
- ・定数を減らし、報酬は適正額上げる方がよい。
- ・定数は増やしてもよいが（多いほうがよい）、報酬をカットして対応。

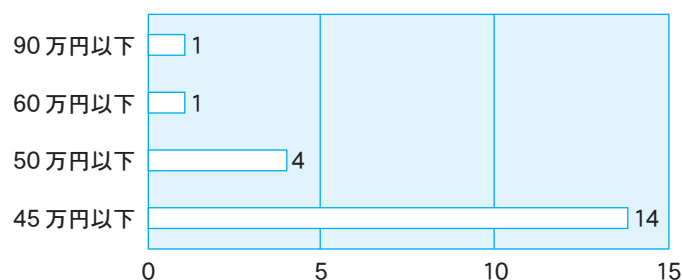
問13 問12で「報酬は多すぎると思う」、「報酬は少なすぎると思う」を選ばれた方にお尋ねします。あなたが思う議員報酬とその理由をお書きください。

問12で「多すぎる」と回答された方は20万円から38万円の間に集中してさまざまな意見があります。回答数は少数（20人）ですが、「少なすぎる」と回答された方もあります。

「多すぎると思う」を選ばれた方



「少なすぎると思う」を選ばれた方



主な理由（要約筆記）

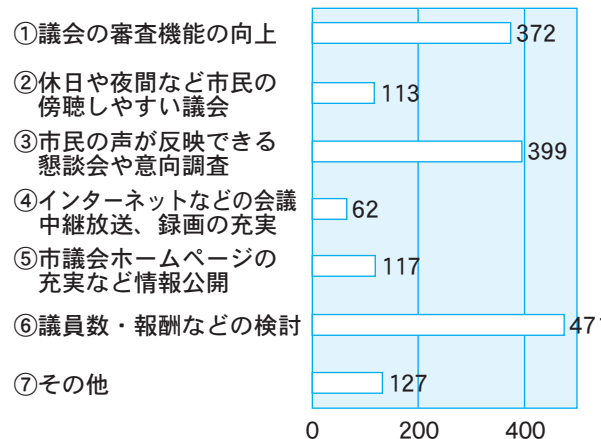
- ・報酬は生活給として考えるものなのか、基礎知識もないので答えようがない。
- ・政務調査費制度で補充する。
- ・議員報酬は支払わず、政務調査費等の必要経費を支払うべき。
- ・他に収入がある。他の仕事と兼業している議員が多い。
- ・議員が専業ではサラリーマン化し真剣さに欠ける。兼業の場合は収入が安定しているので、報酬にこだわらず、議員活動ができる。
- ・議員の活動状況と議会に費やす時間日数等をみて考えるべきだ。
- ・報酬に見合った仕事や成果が見えてこない。
- ・市の財政が厳しいため、税収と支出に見合った報酬を考えるべき。
- ・定数削減し報酬を上げる。
- ・丹後地区の平均給与水準に見合った金額にすべきだ。
- ・京都府・全国の参考資料や他市との均衡も参考にして。
- ・いろいろと活動される議員は38万円でも低いのではないかと思う。
- ・職務に専念していただく。威厳を持った議員となるよう努力（精進）を重ねて頂きたい。
- ・専門化し報酬で生活できるようにすべき。これくらいは最低。
- ・議員は特別公務員であるが生活費である。あまり低くては若くて優秀な人が立候補できない。

問9 問8で「市議会の改革は必要だ」を選ばれた方にお尋ねします。市議会が改革に取り組む課題は何だと思いますか。

「議員数・報酬などの検討」についての意見が最も多く、次に「市民の声が反映できる懇談会や意向調査」、「議会の審査機能の向上、政策提言機能の強化」と続いています。

主な意見（要約筆記）

- ・どの議員が何を言っているのか、どのように考えているのか、情報を発信して欲しい。
- ・報酬・数を少なくする以外、何も望まない。
- ・定数を増やして、報酬を引き下げるべし、この方が有能な人材が集まる。
- ・貧弱な市なのに議員数・報酬などがいずれも多すぎる。
- ・地域の代表のような人からの意見を聞く機会を多くもって、市民の意見を聞いてみてほしい。（福祉、教育、医療、司法、行政）問題点を共有したい。
- ・私達が今一番市に要望していることをわかりやすく伝えてほしい。議会が今何をやろうとしているのかわからないので、関心が薄いのが本音である。



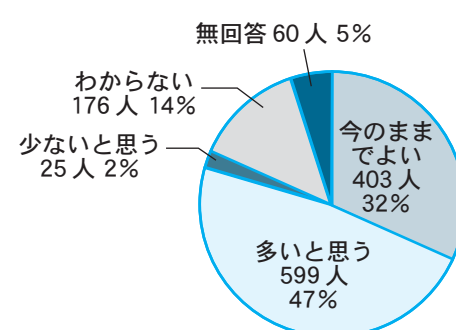
- ・よからう議員ではなく、議員立法、また、行政に対する対案が出せるような政策の勉強が必要。
- ・地域ごとでの懇談会などをもっと考えてほしい。
- ・議員定数削減。政務調査費は必要では。資質の向上、研修費。
- ・30議席から24議席ぐらいでよいではないか。報酬は上げてよいが、市民のためになるよう頑張してほしい。

問10 合併により現在の議員定数は30人（法律での上限30人）ですが、議員数についてどう思いますか。

「多いと思う」が47%と約半数を占めていますが、「今のままでよい」も32%あります。

主な意見（要約筆記）

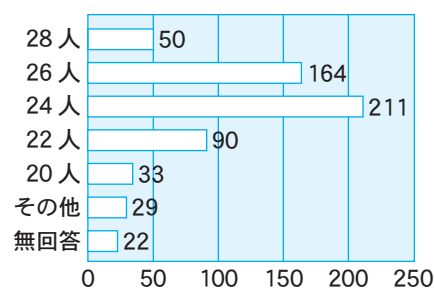
- ・議会の役割からして、議員定数の削減は望ましいことではないが、地域経済・財政状況から経費削減を図るために、定数削減は緊急を要する。
- ・議員自ら危機感と定数削減を示してほしい。
- ・減数しても、議員の努力で市民要求などは対応できる。
- ・議員が多すぎて、それぞれの活動状況がよくわからない。
- ・他市の人口に比べて、議員数は多すぎる。
- ・予算の厳しい中でもあり、極力少数精鋭で願う。
- ・市の面積は広く、民意を反映させるためには一定の議員数は確保すべきだ。



- ・少人数では議会活動が十分にできない。これ以上少なくすると議会が活性化しなくなる。
- ・将来的には削減も考えられるが、合併後、まだ日も浅く、広大な地域であるので、地域の声を聞き、地域の実情を把握して市政に反映させるためには、現在の定数でよいと思う。

問11 問10で「議員数が多いと思う」を選ばれた方にお尋ねします。削減後の具体的な議員定数は何人だと思いますか。その理由をお書きください。

削減後の議員定数は「24人」が211人で全体の35.2%と最も多く、次いで「26人」、「22人」、「28人」の順になっています。



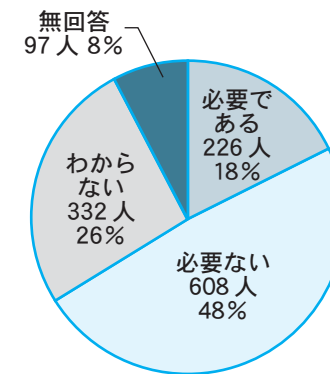
主な意見（要約筆記）

- ・市職員削減の中、議員だけが法律上限定数では市民に理解されない。
- ・多くの市が、法定数を削減している。人口規模でも京丹後市は多すぎる。
- ・京丹後市よりも人口の多い市、福知山市（26人）・京田辺市（21人）八幡市（24人）などを参考にすべきである。
- ・面積が広いので26人でよい。
- ・他市と比較すると、62,000人では20～24人が妥当だ。
- ・少数精鋭を希望する。段階的に24人。将来22人。
- ・市の財政力、経済力、議員の能力等を考えると、20人で十分だ。

- ・議員さんにより活動の方法は様々だと思うが、個々に要望をきいてくれるという姿勢があまり見受けられない。
- ・市当局の提案に反対の場合は対案を出すことが必要ではないか。単なる反対では意味が無い。
- ・出身の旧町にとられることなく、広い視野で新しい京丹後市の建設に一層の努力をお願いしたい。
- ・理想、理念を持った議会運営をしてほしい。貴重な時間とお金を有効に活用すべきですが、それが感じられない。若い夢に向かって活動している議員がいるとすれば申し訳ない。
- ・市会議員の顔が見えないし一人ひとりの政策やビジョンを明確にしてほしい。他町の文化財産やイベントをもっと知るべきだ。議員同士でボランティアや環境のことを話し合うべきである。（議会以外の時間で）
- ・①住民の意向調査等を分野ごとに、例えば年1回等定期的に実施し、妥当に思われるものについては政策に反映してほしい。②議員の定数・報酬については、活動の内容との関連があり、具体的な意見が言えない（議会活動不勉強のため）活動充実を条件に、定数は現状でも可。報酬についても必要な増額等も可と考える。
- ・合併してからというもの、市政がわかりづらい。伝わってこない。京丹後市の実感なし。無理がある。もっとアピールしてほしい。
- ・市民が期待することが出来る市会議員であってほしいので、もっと情報をあらゆる手段で発信して欲しい。そして、京丹後市が良くなるようこれからも頑張ってもらいたい。期待している。
- ・一般質問で同じような質問が多い。もう少し質問者を減らすべきだ。一人の持ち時間が少ないため、消化不良のような答弁が多くていららする。
- ・議員の良質な意見と立法（条例）を望む。
- ・もっと一人一人の思想や政策など、何を提案して何に賛成して何に反対したなど、細かくわかるように、また、ネットでもわかるように情報を公開してほしい。
- ・丹後6町合併してから2年半しか経過していない。改革、改革と急いでいるようだが、今大きく社会情勢が動いている。もう少し情勢を見極めながら見直しされるべきだ。
- ・京丹後市が将来他の合併地域からうらやましがられるようなまちづくりに向けて、一丸となって頑張ってもらいたい。1年、1年の積み重ねで、近い将来そんな京丹後市になることを願っている。
- ・市議会で自発的に市民アンケート調査を実施され、議会の活性化と改革に取り組まれたことに敬意を表する。新市が誕生して2年7カ月が経過した。課題も多いが、市民、市執行者と協働して課題解決を図り、希望の持てる市づくりに活躍を期待する。
- ・市議会への要望というより、自分自身も含め女性がもっと市に対して意見を持ち、未来が明るくなれるよう協力できればと思う。周りを見ても興味を持っておられないように感じるので、女性の座談会的な気楽に意見交換できる場を作っていただきたい。
- ・我々の身近になければならない市議会に関心が持てない現状では、何の向上もない。それに携わっている方々は大変なご苦労をされていると思うが、市民が一丸となって京丹後市が住みよいまちづくりになるよう、また、協力したいという気持ちを持てるように歯車がかみ合っていくにはどうしたらよいかというところから、再度見直しをお願いしたい。
- ・議会に興味がないのではなく、こんな時代だからこそ逆に注目しているが、普通に暮らしている私には、何をしているのかまったく見えてこず、アンケート内容にも答えられない状況だ。議員の方と一般市民の考え方にもかなりの温度差があるように感じる。
今、何に取り組んでいるのかわかりやすくしてほしい。
- ・京丹後市になり、大きな器になったが、不便な点が次々と出てきている。メリットがあったのか疑問だ。京丹後市になり、この町に住んでよかったと思えるようにと望んでいる。特に、若者が帰ってきてくれる町になるように願う。
- ・我々20代前半の者にとって、京丹後市は正直かなり居心地が悪いところだ。特に、仕事において正式に雇用してくれる会社は微々たるものだ。安定した雇用につくための改善などしていただきたい。若者は、離れていくばかりだと思う。
- ・10年、20年先のビジョンを持って市民をリードして、より良い市になり、若者が定住できる地域にしてほしい。合併はしたものの、良くなったと感じられることがあまりにも少ない。住民に直接関係するきめ細やかな事柄、要望等に対して、納得できる説明責任を果たしてもらいたい。京丹後市に住んでよかったといえるまちづくりをぜひ進めていただきたい。若者が働ける企業の誘致に努力願いたい。

問14 京丹後市では現在支給されていませんが、議員や会派などが活動するために必要な費用を支給する制度（政務調査費制度）があります。これについてどう思いますか。

「必要である」が18%ありますが、ほぼ半数の48%が「必要でない」となっています。

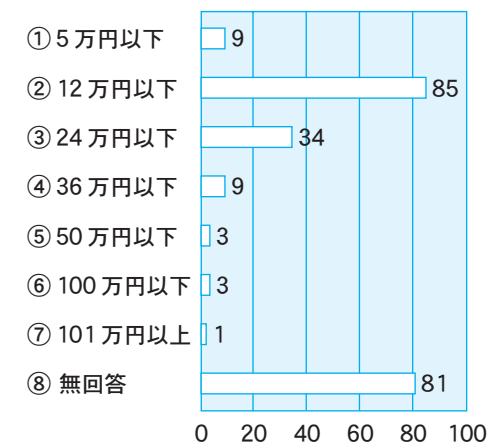


主な意見（要約筆記）

- ・京丹後市発展のため幅広く知識を吸収し研究する必要がある。
- ・議員定数を減らすなら検討しても良い。
- ・調査費を支給するのなら報酬を減らすこと。
- ・用途を明確にして調査報告や資料を公開すること。
- ・領収書等の使用明細を明示し、不正がないようにすること。
- ・厳しい財政であり、不祥事も多く、悪用が懸念されるので不要だ。
- ・議員活動に必要な費用は報酬に含まれているから必要ない。
- ・活動量に個人差があり、一律支給するのはおかしい。報酬の二重取りになる。
- ・必要に応じて支給すること。定額で支給する必要ない。
- ・議員個々でなく会派に支給し、会派全体で知識・資料を共有するなら良い。
- ・現状で活動できるなら、これからは必要ない。
- ・議員報酬が多すぎるので必要ない。
- ・有意義な制度として活用されていない。調査費に使われるのか疑問。

問15 問14で「政務調査費は必要である」を選ばれた方にお尋ねします。あなたが思う政務調査費とその理由をお書きください。

月額1万円（年額12万）の意見が最も多く、次いで月額2万円（年額24万円）となっています。



主な理由（要約筆記）

- ・月額1万円。市民生活に身近な目に見える活動を望む。
- ・議会の立案能力の向上や市政のチェックのために必要。
- ・議員のさらに積極的な活動のために必要。
- ・月1～2万円。参考資料で他市と比較すると適当な金額。
- ・議員報酬を下げて確実に勉強調査に必要な経費を支給する。
- ・議員の活動がわからないので金額はわからない。
- ・定額でなく必要な額だけ。但し、使途は厳格であること。
- ・活動する議員には多く、そうでない議員には少なく。一律はだめ。
- ・京丹後市は面積が広いので、住民の声を聴く活動費用として。
- ・地方分権の時代、真剣な調査資料の収集と勉強が必要。
- ・報酬、議員定数を削減することを前提に支給しても良い。
- ・領収書等の提出など情報開示も必要。
- ・議員報酬の上乗せにならない実費支給的なもので。
- ・会派を中心とした調査研究を重視すべきである。
- ・会派費用、政党費用にならないようにすること。

問16 最後に、市議会へのご意見、要望などがありましたらお書きください。（要約筆記）

- ・議員としての資質の向上と、市民のための冷静な判断と行動を求める。議会改革特別委員会で諸課題について議論が行われ、公正な判断がなされることを望む。
- ・調査・研修し自らが知恵を出して、どうしたら京丹後市が良くなるかに全力を出してほしい。
- ・議員と市民の意思疎通の機会がない。市民の声が反映できる懇談会の開催など市民との対話につとめることを要望する。
- ・議員は市民の声を代弁すべき人。もっと地域に入って地域・市民の声を吸い上げてほしい。
- ・合併効果が現れていない。合併してよかったと思えるまちづくりを望む。
- ・議員として各人の個性を強調するのもいいが、もっと市民の立場になって協調すべきだ。会派が多すぎる。
- ・過疎地がますます寂れていくと感じている。周辺部にも目の届く活動に取り組むことを切望する。
- ・なれあい議会では困る。市民の代表であるという意識をもっと強く持って、市民の目線で発言してほしい。

市民の

声

丹後の魅力を 身近に感じて

丹後町間人

森口 紀子



いて実感しています。

私は社会福祉協議会で働いていますが、そこではボランティアの方々の創造力や実践力、以前この「市民の声」で紹介されていた久美浜町尉ヶ畑地区の取り組みのような、地域の生き生きとした活動を支援しています。

多くの方が魅力ある地域づくりに取り組んでおられる中、私も仕事として支援する側だけでなく、一住民として魅力を創っていく実践者でもありたいと願っています。

まだ若い世代？といえるであろう私にとって、地域のことを知る手段として、幅広く活動に参加することは有意義なことだと考えるからです。

活動していきみしいこ

とは、若い方の参加（活動

者としての）が少ないことです。きつと素晴らしい発想を持つ若い方が、地域の中にはおられると思います。その力を、ぜひ発揮していただき、地域の力をいろいろな世代で、いろいろな角度から育てていけたらと思うのです。

何かを育てる、創るってすごく楽しいことだと思いませんか？しかも、地域の魅力をそこに暮らす皆で創っていったら、誰もが暮らしやすい地域社会になること間違いなし！?ではないでしょうか。

このような私の思いをふまえて、行政に一番取り組みでほしいと思うことは、「産業の振興」です。

どこの地域でも、少子・高齢化が大きな課題となっ

ていますが、若い人達の働く場所がなければ、学校を卒業してわが家に居たくても出ていかざるをえませんし、また、都会から帰ってくることもできません。

ですから、何よりも仕事があつて、若い人が住めるまちづくりを進めていただきたいと思います。

それによって、まち全体が活気にあふれて、若者に限らず多くの人達にとつても、いろいろと活動がしやすくなり、ますますすばらしい京丹後市になっていくのではないかと期待しています。



あとがき

議会改革特別委員会が実施した「市議会に関するアンケート調査」の結果をご覧いただいたでしょうか。

各項目にわたってたくさんのご意見・ご要望をいただいています。紙面の都合でほんの一部しかご紹介できませんでしたが。

原本は、各市民局の窓口に備えていますので、ご希望の方は、ご面倒でもお願いいたします。

調査結果については、議会として重く受け止め、改革に十分生かしていかなければなりません。ご覧いただいたのが感想やご意見などありましたら、ぜひともお寄せください。お待ちしております。

広報編集委員会

委員長 浅田 武夫
副委員長 松本 聖司
委員 井谷 實夫
岡田 修
川村 博茂
高山 充男
平林 智江美
松尾 信介
森口 亨
松本 隆明

事務局

松本 隆明